

2026年5月27日

カトリック京都教区の皆様へ

カトリック京都司教
✠パウロ大塚喜直

2027年 京都教区創立90周年に向けて
— ともに祈り、ともに歩む一年の呼びかけ —

京都教区は、2027年6月17日に創立90周年を迎えます。

京都教区の歩みは、1937年6月17日、京都・奈良・三重・滋賀の一府三県をもって、大阪教区から分離されるかたちで「京都知牧区」が設立されたことに始まります。設立当初、その司牧はメリノール宣教会に委ねられ、初代知牧区長にはパトリック・バーン師が任命されました。

その後、1951年7月12日、京都知牧区は司教区に昇格し、同年9月21日、パウロ古屋義之師が初代京都司教として叙階されました。以来、京都教区は、神の導きのもと、多くの司祭、修道者、信徒の祈りと奉仕に支えられながら、今日まで歩んでまいりました。

また、創立50周年にあたる1987年には、京都教区で開催された第1回福音宣教推進全国会議(NICE)の最終日である11月23日に、創立50周年もあわせて記念されました。

2027年に迎える創立90周年を、わたしたちは、ただ過去を振り返るだけの機会ではなく、神への感謝を新たにし、これからの宣教の歩みをとともに見つめる恵みの時としたいと願います。

創立90周年は、2037年に迎える創立100周年へと向かう大切な節目です。京都教区の歩みを支えてくださった神に感謝し、先人たちの信仰のあかしを受け継ぎながら、これからの京都教区が、どのような教会として福音を生き、社会の中であかししていくのかを、ともに祈り、ともに識別してまいりたいと思います。

1 創立90周年の感謝の集いについて

「創立90周年の感謝の集い」は、この節目の恵みを次の世代へ信仰として手渡す機会となるよう、各地区において、合同堅信式を兼ねた記念ミサとして開催する予定です。

日程は、次のとおりです。

- 2027年4月18日(日) 京都北ブロック
- 2027年4月25日(日) 奈良ブロック
- 2027年5月9日(日) 三重北部ブロック
- 2027年5月16日(日) 京都南地区
- 2027年5月23日(日) 滋賀ブロック
- 2027年5月30日(日) 三重南部ブロック

それぞれの地域において、堅信を受ける方々とともに、教区の歩みに感謝し、これからの宣教の使命を新たに祈りの時となるよう、ご準備をお願いいたします。

2 具体的な取り組みのお願い

この一年を実り豊かなものとするため、各小教区、ブロック、修道会、諸団体、施設において、それぞれの実情に応じて、次のような取り組みをお願いいたします。

① 創立 90 周年の意向を心に留めて祈る

主日のミサ、共同祈願、聖体礼拝、信徒の集いなどの機会に、京都教区創立 90 周年のための祈りを取り入れてください。教区全体が、霊的一致のうちにこの一年を歩むことができるよう願っています。

共同祈願の例：

2027 年に創立 90 周年を迎える京都教区のために祈ります。この一年が、感謝と祈り、一致のうちに歩む恵みの時となり、さまざまな国や文化的背景をもつ信徒が、ともに支え合いながら、福音の喜びをあかしする者となりますように。

② 教区と各地域の歩みを振り返る

それぞれの小教区、地区、ブロックにおいて、創立の歴史、宣教の歩み、先人たちの信仰のあかし、地域における奉仕の歴史を振り返る機会を設けてください。証言の記録、写真や資料の整理、分かち合いの集いなど、可能な形で取り組んでいただければ幸いです。

③ ともに歩む多文化の教会を深める

多文化共同体としての教会の歩みをさらに進めるため、さまざまな国や文化的背景をもつ信徒との交わりを深めてください。ともに祈り、ともに担い、ともに識別する場を大切にし、必要に応じて、多言語による案内や祈り、交流の機会を工夫してください。

④ 若い世代へ信仰を手渡す機会を広げる

子どもたち、青年たち、若い家庭が教会の歩みに参加しやすくなるよう、信仰教育、交わり、奉仕、召命への促しの機会を意識して設けてください。創立 90 周年が、世代を超えて信仰を受け渡す契機となることを願っています。

⑤ 福音宣教の優先課題を見つめ直す

それぞれの共同体において、今、何を大切にし、何を優先して取り組むべきかを、祈りのうちに見つめ直してください。とくに、宣教、召命、多文化共生、平和、貧しい人々へのまなざし、信仰継承などについて、具体的に分かち合い、識別する機会を設けてください。

おわりに

皆さまの祈りとご協力のうちに、京都教区創立 90 周年が豊かに祝われ、教区の歩みがさらに祝福されることを心より願います。この一年が、京都教区に連なるすべての共同体にとって、原点に立ち返り、祈りと出会いのうちに希望を新たにす恵みの時となりますように。そして、わたしたち一人ひとりが福音の希望をともす者として、創立 100 周年へと続く歩みを支える架け橋となることができますように。

以上